

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2023年（令和5年）4月から6月

- 1 調査期間 2023年4月～6月（第1四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

製造業	10社
建設業	2社
小売業	1社
飲食業	2社
観光業	3社
サービス業	1社
計	19社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 9

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べての全体の業況 DI は+10.5 ポイントである。前回は-21.1 ポイントであったため 31.6 ポイント改善している。これは飲食業・観光業そしてサービス業が全体の数値を押し上げている。唯一製造業だけが-20.0 とマイナスの数値である。

経営者の眼にもある通り、観光業は GW から観光客の客足が戻ってきている状況であるが反面、製造業は業界全体に停滞感があり回復基調になっていない。

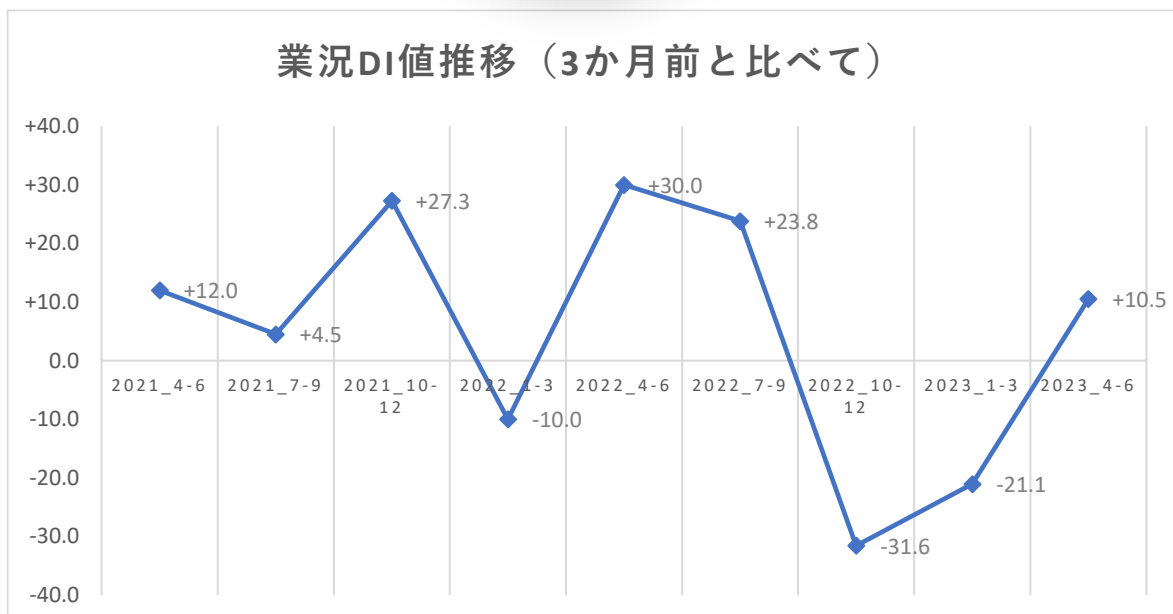
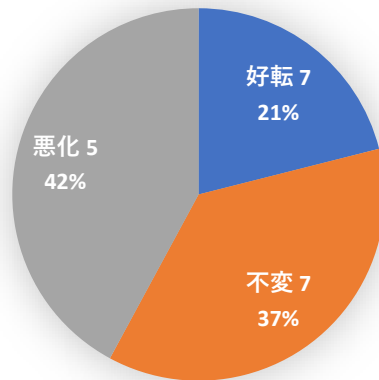
前年同期比において、全体の業況 DI は+15.8 ポイントであり、前回は-15.8 ポイントであるため 30 ポイント以上の上昇である。ここにおいても小売業・飲食業並びにサービス業が好転しているが、製造業だけがマイナスポイントである。

3か月後の見通しでは、全体の業況 DI は+10.5 である。前回は 0 であり多少見通しが明るく見えるがここでも製造業とそれ以外の業種の動向が対称的である。

経営者の眼にもあるように、製造業では「人手余剰現象」が出てきており、製造業以外の業種では「人手不足現象」が起きていることが象徴的である。

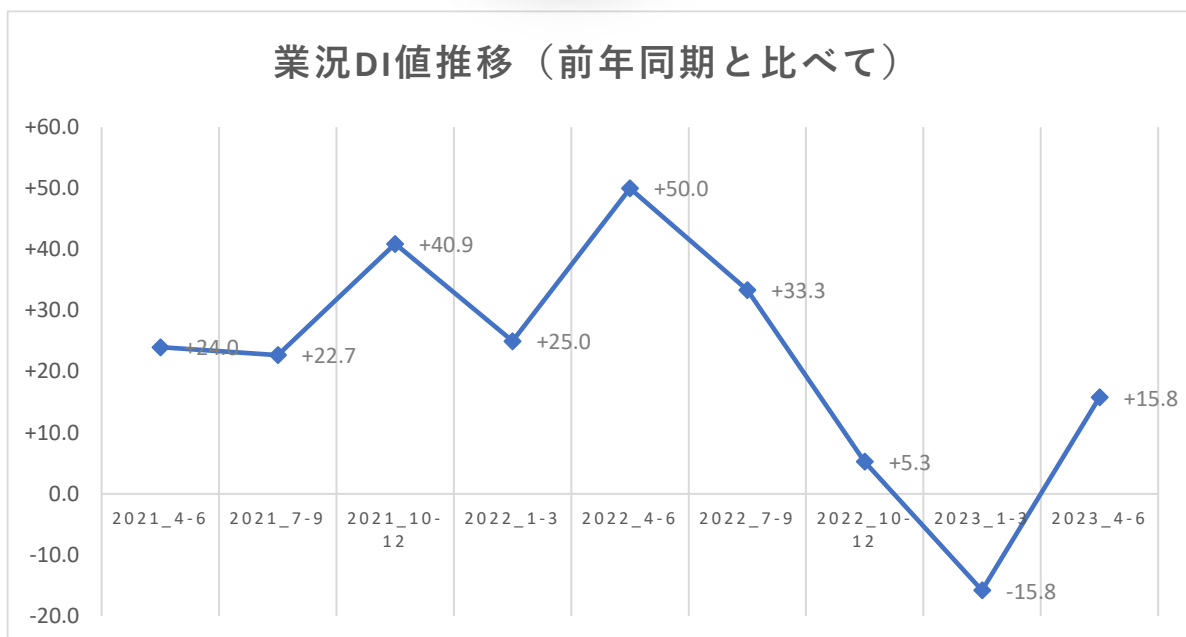
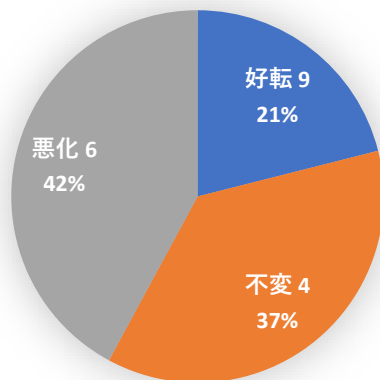
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	7	7	5	19		↗
	構成比	36.8%	36.8%	26.3%		+10.5	
製造業	実数	2	4	4	10		→
	構成比	20.0%	40.0%	40.0%		-20.0	
建設業	実数	1	0	1	2		→
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
小売業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	1	2	0	3		↗
	構成比	33.3%	66.7%	0.0%		+33.3	
サービス業	実数	1	0	0	1		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



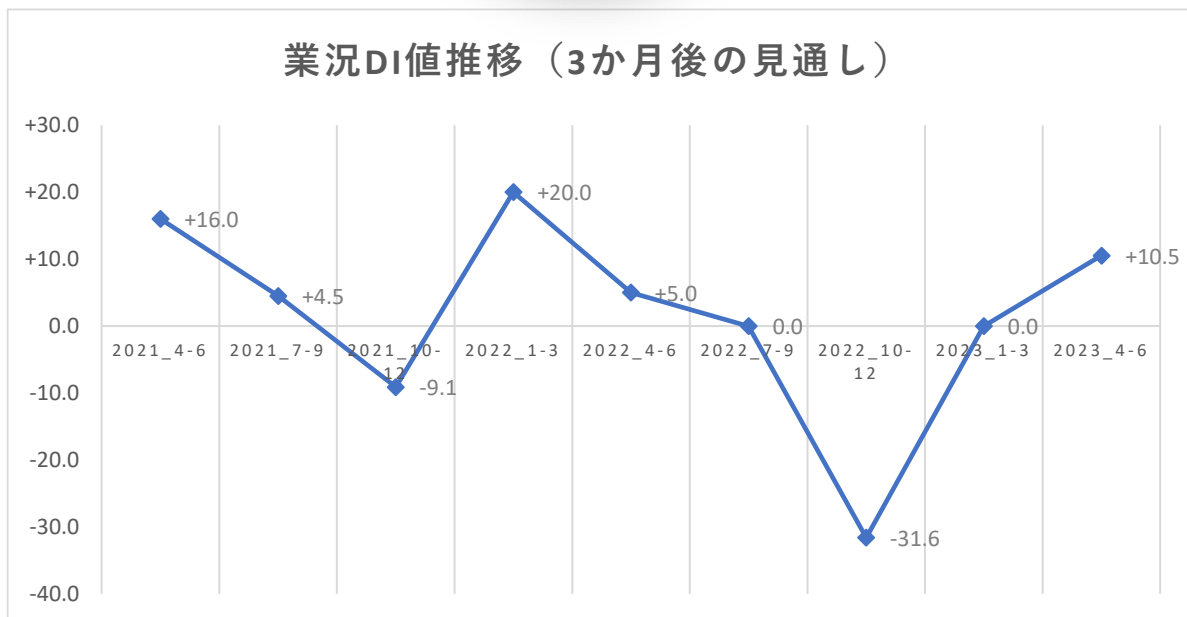
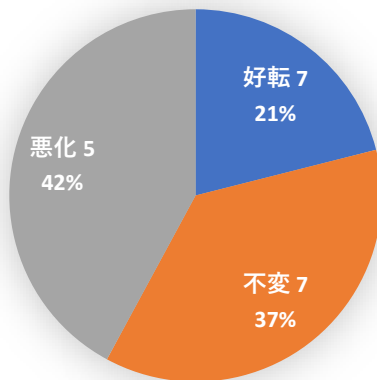
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	9	4	6	19		▲
	構成比	47.4%	21.1%	31.6%		+15.8	
製造業	実数	2	3	5	10		▼
	構成比	20.0%	30.0%	50.0%		-30.0	
建設業	実数	1	0	1	2		▲
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
小売業	実数	1	0	0	1		▲
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		▲
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	2	1	0	3		▲
	構成比	66.7%	33.3%	0.0%		+66.7	
サービス業	実数	1	0	0	1		▲
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	7	7	5	19		↗
	構成比	36.8%	36.8%	26.3%		+10.5	
製造業	実数	0	6	4	10		↘
	構成比	0.0%	60.0%	40.0%		-40.0	
建設業	実数	1	0	1	2		→
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
小売業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		→
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	3	0	0	3		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
サービス業	実数	1	0	0	1		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	



<経営者の眼(見方)>

事業主コメント	業種
<p>年度明けからは順調な受注で、むしろ納入が間に合わず納期を遅らせながら対応してきたくらいでした。ところが、今月に入ってから急激に受注量が減少してきています。今月から来月の初めまでは遅延分を追いかけてながら対応することになりますが、その先の見通しが立ちません。内示も期待できるような数字ではありません。</p>	製造業
<p>急激ではないが動きが鈍い状況。どこまで減少するかはわからないが年内は動きが鈍い情報がある。</p>	製造業
<p>依然としての不透明感とはいえ、コロナを機に変化している。より注力が必要。</p>	製造業
<p>先の見通しが不透明で危機感を感じる。</p>	製造業
<p>製造業全体に停滞感を感じるものの弊社業界は動きがあるような気がします。受注状況も好調で前年並みまたはそれ以上に推移していくと思われます。</p>	製造業
<p>人余り現象が製造業に出てきている。</p>	製造業
<p>作業員不足により生産の拡大が望めない</p>	建設業
<p>値上がりし続けていた仕入のうち原材料は下落に転じ、販売価格全体も天井を付け下落し始めたことは好感されている。業績は改善しつつあるも物価がコロナ前の価格に戻るわけではないこと、原油高や電気料金高が家計を直撃していることから、出費を抑えたい客層が多く見られ、今後のインフレ動向が消費マインドを左右させると見ている。</p>	建設業
<p>全国旅行支援割の反響は、限定的でした。この先、首都圏等都市部が酷暑になればなる程、客足が伸びる感があります。ただ、高齢化で商機を逃しています。</p>	観光業
<p>GWから宿泊客の予約が戻ってきています</p>	観光業
<p>業界的にも先行き不透明です。現状維持を第一に収益改善をめざします。</p>	小売業
<p>GWは、規制等の緩和により客足が戻ってきた。例年だとGW後から梅雨時期の6月は客足が引きがちだが、周遊券や天候のおかげで観光客の来店が多く見られた。光熱費や物価の高騰は相変わらずではあるが、町の支援が大変ありがたかった。</p>	飲食業
<p>売上は順調に回復傾向にありますが、材料費・経費・人件費等の増加に伴い、経営は厳しい状況です。</p>	飲食業